

ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、2022年4月4日をもって、東京証券取引所「プライム市場」に移行いたしました。プライム市場上場企業として、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指すとともに、コーポレート・ガバナンスのさらなる拡充、サステナビリティへの取組みを積極的に進めてまいります。

さて、当社グループは、「DMC (Direct Marketing Conglomerate) 複合通販企業の変容と進化」をテーマとする中期経営計画「Next Evolution 2023」に基づき、来るべき流通暗黒時代に備え、内包する事業課題の解消や将来を見据えたビジネスモデルの推進、ビジネスインフラの強化およびコーポレート・ガバナンスの強化など、ビジネスモデルの変容と進化に努めてまいりました。

この結果、2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)の経営成績につきましては、基幹事業である通販事業の売上が引き続き堅調に推移したことに加え、収益力強化に向けた各種取組みが奏功し、売上・利益面ともに過去最高であった前期に次ぐ業績となりました。

このたび当社グループは、企業としての責任を果たし、この先100年続く企業となるべく、グループの存在意義をはじめとする「スクロールフィロソフィ」およびグループとして解決すべき「マテリアリティ(重要課題)」を制定・決定いたしました。

今後におきましては、新フィロソフィ、マテリアリティに基づき策定いたしました、中期経営計画「Next Evolution 2024」において、「第二次DMC複合通販経営の推進」および「Responsibility経営の取組み強化」を二大重点方針として掲げ、各事業セグメントのビジネスモデルの進化を図るとともに、カーボンニュートラルに向けた取組みやタスク・ダイバーシティ推進の強化など、経済価値と社会価値の両立を通じて、持続的成長を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

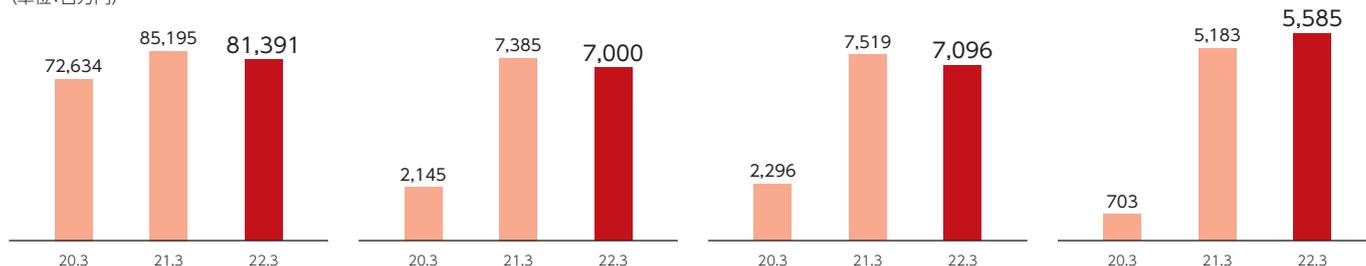
鶴見知久



決算ハイライト 2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
81,391百万円 (前期は85,195百万円) (収益認識基準影響△2,516百万円)	7,000百万円 (前期は7,385百万円) (収益認識基準影響+1百万円)	7,096百万円 (前期は7,519百万円) (収益認識基準影響+1百万円)	5,585百万円 (前期は5,183百万円)

(単位:百万円)



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しております。2022年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、2021年3月期以前は、収益認識基準適用前の数値にて表示しております。前期と収益の会計処理が異なることから、対前期増減率は記載しておりません。

セグメント別概況

※従来、セグメント売上高は連結相殺消去後の数値を記載しておりましたが、セグメントごとの事業の成績をより明確に表すため、今回より、連結相殺消去前の数値を記載しております。

通販事業

「毎日が楽しくなるような商品」を主に生協宅配事業の組合員向けに販売する「通販事業」

- ▶ 新規媒体の企画や品揃えの拡充が奏功したことに加え、SCMコントロールにより商品供給率が向上し、売上は堅調に推移
- ▶ 商品調達方法の見直しによる原価率の低減、効果的なカタログ配布による販促費の削減に取り組み、事業効率の最大化を推進

売上高

41,914 百万円

(前期は42,144百万円)
(収益認識基準影響△37百万円)

セグメント利益

6,439 百万円

(前期は6,205百万円)
(収益認識基準影響+1百万円)

▶SDGsカタログ「つづくみらい」の創刊

「ファッションを通じて“ちょっといいことをしている”と感じていただける体験の提供」をカタログコンセプトにした、SDGsカタログ「つづくみらい」を創刊しました。サステナブルな世界や社会を目指すということは、地球の限りある資源を使いすぎず、大切に、より良い状態で未来へつなぐということです。すべてを急に変えるのではなく、「できることから少しずつ」「楽しく取り入れて継続させること」を、このカタログを通じて提案していきます。創刊号は、環境配慮、伝統と技術、社会貢献の3つの軸で構成され、オーガニック素材を使用した商品やペットボトルをリサイクルしたスニーカー、久留米織を使用したアパレル商材などを掲載しています。



ソリューション事業

EC・通販事業者の事業を
発展させるための改善提案を行う
「ソリューション事業」

- ▶ コロナ禍によって遅延していた営業活動が進展したことにより、新規クライアントの獲得が進む
- ▶ 決済代行サービスやマーケティングサポート事業は堅調に推移
- ▶ ソリューションメニューの強化・拡大および全国通販3PL戦略の推進に向けた営業活動の強化を実施
- ▶ S L Cみらい等における、業務効率改善を目的とした設備投資を実施

売上高

18,490 百万円

(前期は19,836百万円)
(収益認識基準影響△1,717百万円)

セグメント利益

177 百万円

(前期は826百万円)

▶物流代行サービスを手軽に導入！「ライトプラン」提供開始

スクロール360では、あらゆるクライアントニーズへ対応するため、中小規模のリピーター通販事業者向けに、高品質の物流代行サービスをより手軽に・スピーディーに導入できる「ライトプラン」の提供を開始しました。一般的な中小規模事業者向けの物流代行サービスでは難しいとされている「販促物同梱」や「ギフトラッピング」にも標準対応し、費用負担を抑えながら、特にリピート通販で重要な“顧客満足度”を高め、LTVを最大化するために必要な機能を提供します。



▶新たな後払い決済サービス「届いてから払い※」提供開始

キャッチボールでは、マルチ決済に対応したリスク保証型後払いサービス「届いてから払い」の提供を開始しました。「届いてから払い」とは、ECサイトや通販で「商品が届いてからお支払い方法を決める」ことができる新しい後払い決済サービスです。後払いでのクレジットカード払いやスマホ決済など、多様なお支払い方法から選択が可能のため、決済による購入機会損失を極限までなくし、事業者の新規顧客獲得に貢献します。

※「届いてから払い」は株式会社キャッチボールの商標です。



eコマース事業

「毎日が楽しくなるような商品」をインターネットで販売する「eコマース事業」

- ▶ キャンプやフィッシングなどのアウトドア関連商品は引き続き好調に推移
- ▶ 家具・インテリア等の在宅関連商品は、前期の巣ごもり需要の反動により減収

売上高 21,406 百万円
(前期は23,350百万円)
(収益認識基準影響△748百万円)

セグメント利益 404 百万円
(前期は1,026百万円)

▶ ナチュラム「ハイランダー」 ブランドサイトリニューアル

オリジナルブランド「ハイランダー」のブランドサイトを、2022年3月、リニューアルしました。新商品発売やメディア掲載情報など、最新の情報を掲載しています。
<https://www.hilander-outdoor.jp/>



▶ 「ひとりを楽しむ」プロジェクト チェストベッドを発売

昭和女子大学「現代ビジネス研究所」と、スクロールR&D「生活雑貨」がコラボし、「もっとひとり暮らしを楽しむための商品を！」という目的で、「ひとりを楽しむ」プロジェクトを発足。アンケートやヒアリングを通じてリサーチした悩みや要望を商品に反映させ、ひとり暮らし女子にぴったりの大容量収納チェストベッドが完成しました。



https://www.seikatsuzacca.com/f/swurd_bed

健粧品事業

「ちょっといい物語」のあるオリジナルブランド化粧品や健康食品を販売する「健粧品事業」

売上高 2,072 百万円
(前期は2,764百万円)
(収益認識基準影響△12百万円)

セグメント利益 23 百万円
(前期はセグメント損失530百万円)



旅行事業

日帰りバスツアーや海外からの訪日ツアーなどコトサービスを展開する「旅行事業」

売上高 437 百万円
(前期は289百万円)

セグメント損失 24 百万円
(前期はセグメント損失77百万円)



グループ管轄事業

物流を中心にスクロールグループのインフラを支える「グループ管轄事業」

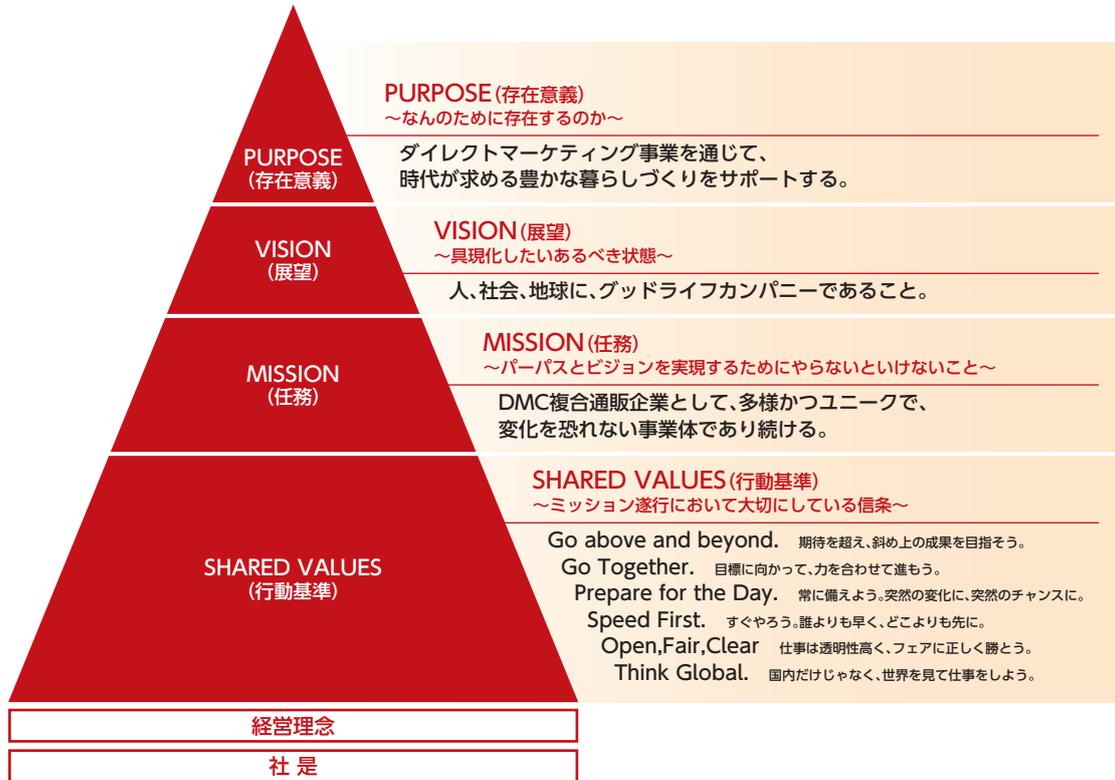
売上高 3,287 百万円
(前期は3,323百万円)

セグメント利益 111 百万円
(前期は94百万円)



スクロールフィロソフィの制定

このたびスクロールグループは、今後の持続的成長に向け、パーパス（存在意義）を改めて定義し、ビジョン（展望）、ミッション（任務）、シェアードバリュー（行動基準）まで包含した「スクロールフィロソフィ」を制定しました。



7つのマテリアリティ (重要課題)

パーパスとビジョンの実現に向け、当社グループを取り巻く外部環境の洗い出しおよびリスクと機会の把握によって、以下のとおり7つのマテリアリティ (重要課題) を決定しました。これらのマテリアリティを中期経営計画に落とし込み、今後ESGを重視した事業活動を展開していきます。



中期経営計画 「Next Evolution 2024」

スクロールグループは、社会の要請に応えながら、企業としての責任を果たし、持続的成長を実現していきます。この先、100年続く企業に向かって、2022年度から2024年度までの中期経営計画「Next Evolution 2024」を策定しました。

今回の中期経営計画は、当社グループの指針として新フィロソフィ・マテリアリティ（重要課題）を制定・決定し、これらの達成を意識した計画としています。

～To the Next Goal～ DMC複合通販企業の変容と進化

2022年度 二大重点方針

1 第二次DMC複合通販経営の推進

通販事業一本足経営からの脱却

- 1 通販事業セグメントにおけるSVBの売上拡大
- 2 ソリューション事業セグメントの収益拡大
- 3 eコマース事業セグメントの収益率向上

2 Responsibility経営の取組み強化

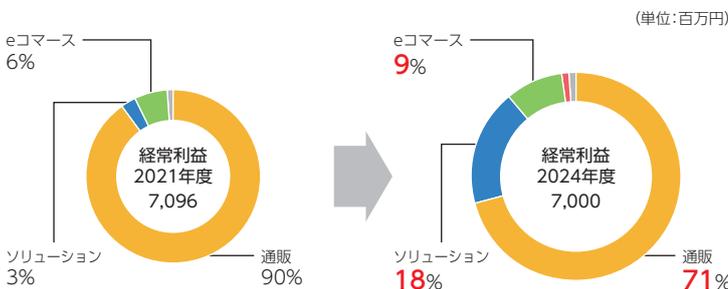
事業利益に貢献する取組み推進

- 1 環境配慮、脱炭素社会への取組み (E/環境)
- 2 タスク・ダイバーシティ経営の推進 (S/社会)
- 3 コーポレート・ガバナンスの拡充 (G/ガバナンス)

中長期目標

経済的価値

DMCの第二次完成に向けた事業ポートフォリオの最適化



	2021年度 (実績)	2024年度 (目標)
売上高	81,391	90,000
経常利益	7,096	7,000
親会社株主に帰属する当期純利益	5,585	5,000
自己資本利益率 (ROE)	19.7%	14%

社会的価値

環境・社会目標達成に向けた取組みの推進



*自社オフィスビル、物流センター

株主還元方針

▶ 利益配分について／当期・次期の配当

■ 基本方針

- ・株主の皆さまへの利益還元を、経営の最重要政策のひとつとして位置付けております。
- ・年間配当金20円を下限とし、連結配当性向40%を基本として実施いたします。

■ 当期(2022年3月期)の配当(1株当たり)

中間配当金 10.0円
 期末配当金 54.5円
 年間配当金 64.5円

■ 次期の配当について

次期(2023年3月期)の配当予想につきましては、「2022年3月期決算短信」をご参照ください。



<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8005/tdnet/2114824/00.pdf>

▶ 株価・出来高の推移

2019年4月～2022年3月

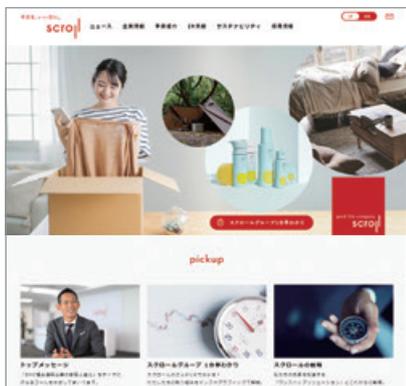


scroll News

■ コーポレートサイトリニューアル

2022年3月、スクロールコーポレートサイト(企業ホームページ)を全面リニューアルしました。今回のリニューアルでは、デザインを刷新したほか、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応し、各デバイスから閲覧できるように改善しております。

また、従来から発信している会社概要やIR情報に加え、サステナビリティ情報や当社グループをよりわかりやすくイメージしていただけるよう「1分早わかり」を掲載するなど、コンテンツの充実を図っています。



<https://www.scroll.jp/>

新コンテンツご紹介



スクロールグループ1分早わかり

当社グループのこれまでのあゆみ、数字で見るスクロール、暮らしの中のスクロールなど、当社の特徴をわかりやすくまとめた新コンテンツです。

<https://www.scroll.jp/ir/1minute/>



サステナビリティ

ESG(環境、社会、ガバナンス)に対する当社の考え方や取組みを発信していきます。また、サステナビリティ活動を、ニュースとして随時更新していきます。

<https://www.scroll.jp/sustainability/>

■ 「スクロールグループ統合報告書2022」発行

当社は2020年から「Value Creation Book」を発行し、投資家の皆さまとのコミュニケーションツールとして活用してまいりました。

このたび、これに代えて、「スクロールグループ統合報告書2022」を発行いたしました。

本報告書は、株主・投資家の皆さまをはじめとする幅広いステークホルダーに対して、当社グループにおける経済的価値と社会的価値の実現による持続的成長ストーリーをお伝えすることを目的に、トップメッセージから、パーパス・ビジョン、事業戦略、環境・社会・ガバナンス等のサステナブルへの取組みなど、価値創造に向けた財務情報・非財務情報を統合的にまとめた報告書です。本報告書を通じて、当社グループの中長期的な企業価値の向上に向けた取組みをご理解いただければ幸いです。

今後も当社グループは、ステークホルダーの皆さまに、持続的成長に向けた情報発信を強化してまいります。



<https://www.scroll.jp/ir/library/annual/>

株式・会社の概況

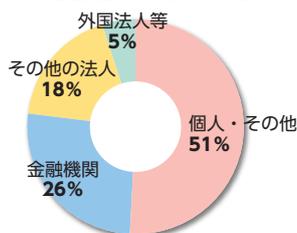
株式の状況

2022年3月31日現在

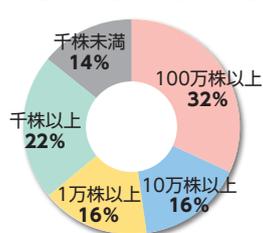
株式の状況

1. 発行可能株式の総数	110,000,000株
2. 発行済株式の総数	34,873,050株
3. 1単元の株式数	100株
4. 株主数	39,828名
5. 単元株主数	36,664名
6. 単元株式数	34,830,500株

〈所有者別株式分布状況〉



〈所有株数別株式分布状況〉



大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,573	10.25
丸紅株式会社	2,841	8.15
スクロール取引先持株会	2,038	5.85
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,474	4.23
株式会社静岡銀行	1,261	3.62
スクロール従業員持株会	803	2.30
日本生命保険相互会社	543	1.56
モリリン株式会社	434	1.25
大日本印刷株式会社	433	1.24
株式会社りそな銀行	400	1.15

(注) 1. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しております。

会社の概況

2022年5月31日現在

商号	株式会社スクロール (Scroll Corporation)
設立	1943年10月1日
資本金	6,018,551,595円
本社	静岡県浜松市中区佐藤二丁目24番1号 電話 053-464-1111(代表)
東京本店	東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー25階・26階 電話 03-5962-0500(代表)
支店・事務所	大阪支店・福岡支店・札幌支店・ジャカルタ 事務所・ダッカ事務所
物流センター	スクロールロジスティクスセンター浜松西 スクロールロジスティクスセンター磐田 スクロールロジスティクスセンターみらい
従業員数	328名(2022年3月31日現在)
グループ従業員総数	866名(2022年3月31日現在)
主な事業内容	アパレル、雑貨、化粧品・健康食品、旅行等の 通信販売事業およびEC・通販事業者へのソ リューション事業
主要な子会社	詩克楽商貿(上海)有限公司 (株)スクロール360 (株)キャッチボール (株)もしも 成都音和娜網絡服務有限公司 (株)AXES (株)スクロールR&D (株)ナチュラルム (株)ミヨシ 北海道アンソロポロジー(株) (株)キナリ (株)トラベックスツアーズ (株)スクロールロジスティクス SCROLL VIETNAM COMPANY LIMITED

役員一覧

2022年5月31日現在

取締役

代表取締役 社長	鶴見知久
取締役 副社長	佐藤浩明
取締役	山崎正之
取締役	杉本泰宣
取締役(社外) ※監査等委員	村瀬 司
取締役(社外) ※監査等委員	宮部貴之
取締役(社外) ※監査等委員	宮城政憲
取締役(社外) ※監査等委員	一杉逸朗
取締役(社外) ※監査等委員	小野亜希子

グループオフィサー

グループオフィサー CEO兼COO	鶴見知久
グループオフィサー CSO	佐藤浩明
グループオフィサー CMO	山崎正之
グループオフィサー CAO	杉本泰宣
グループオフィサー	勝田圭三
グループオフィサー	西田耕三
グループオフィサー	池田訓清
グループオフィサー	音羽裕之
グループオフィサー	大下公宝
グループオフィサー	實藤裕史
グループオフィサー CFO	山下政彦

株主メモ

2022年5月31日現在

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	事業年度終了から3ヵ月以内に開催いた します。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.scroll.jp/ ただし、電子公告によることができない 事故、その他のやむを得ない事由が 生じた時には、日本経済新聞に公告いた します。